



新型コロナウイルスの感染が拡大してから2年が経ちました。高校生の進路活動も大きな影響を受け、様々な変更がありました。先輩たちは常に柔軟に前向きに対応し、自分の進路目標を実現してきました。物事はいつも予定通りになるとは限りません。むしろ予定通りにならないことの方が多いかもかもしれません。予定通りにならないことが当たり前であるならば、その時どのように対応するかが大切です。アクシデントに負けない強さや的確な判断力を培うためにも、失敗を恐れることなく、多くのことに挑戦し、様々な経験を積んでいって欲しいと思います。今回の進路だよりでは分野別に「やっておかなければならないこと」、「実践しなければならぬこと」をまとめておきました。また、裏面に令和3年度卒業生の進路先一覧を掲載しました。これらを参考にして、今後自分の進路についてよく考えるとともに、保護者の方ともこれからの自分の将来について話し合ってください。

民間企業への就職について

求人票は7月1日から学校での受付が始まり、夏休みには校内選考会があります。つまり、このわずかな期間に求人票やパンフレットを見たり、会社見学に出かけたりして、自分が受けたい企業を決めていかなければなりません。そして、就職試験は9月16日以降随時行われます。具体的な企業を決める前に、自分はどのような仕事・職種(事務・製造・販売など)に就きたいのかといった、基本的な事柄から考えるようにしましょう。また、進路指導室には求人票が、県内と県外で分野別にまとめてありますので、就職を希望する生徒は気軽に足を運んでください。保護者の方の来室も歓迎です。就職試験においては、普段の成績はもちろんですが、面接も重要です。面接では想定外の質問にも臨機応変に答えられるような人材を企業は求めています。さらに、「服装」や「敬語」、入退室の「マナー」など日頃から意識して生活しましょう。

公務員について

公務員試験の出願は6月、試験は9月から始まります。したがって、試験のための勉強をする時間は、2年生の場合、あとわずか半年ということになります。2年生はまず、①受験する種別を決定してください。そして、②併願する種別を決定してください(いくつでも可)。これらは、1日でも早くそれぞれの種別にあった試験勉強を開始するために必要なことです。教養試験の対策抜きに公務員合格はあり得ません。万全の準備をして教養試験に臨んでください。そして、③効率よく教養試験の勉強をしてください。教養試験の内容は広範囲に及びますが、ボーダーラインは正答率60~70%といわれています。国家公務員一般職や県警察官など、それぞれの傾向を調べて頻出分野を知り、6割~7割以上得点するにはどの分野、どの科目に集中して勉強すればよいかを分析し、効率よく学習してください。この3点を念頭において、1日でも早く勉強を開始しましょう。

進学について

本校で最も希望者が多い推薦入試の校内選考会は、9月に行われます。特に指定校推薦で受験を希望している場合、「本校を代表して受験をする」といった責任を伴うことを自覚してください。「楽に合格できそうだから」指定校推薦で進学するといった考えは間違いです。また、指定校推薦以外にも、公募推薦や総合型選抜、一般選抜などの入試形態もありますので、指定校推薦だけにこだわるのではなく、自分が行きたい学校にぜひチャレンジしてください。また、合格を勝ち取るためにも、志望校について早期に情報収集をしてください。具体的にはインターネットで検索をしたり、資料請求をしたり、オープンキャンパスに参加するなどの方法があります。なお、4月に配付される「進路の手引き」には様々な入試の方法やその手続き、学校の情報(指定校推薦枠がある学校名など)が詳しく記載されているので、よく読んで活用してください。専門学校を希望する場合は、就職と同様に「何がしたいのか」ということを明確にしてから進学をしなければなりません。なぜなら専門学校は、それぞれの職業に必要なとされる実践的な、即戦力となるような技術や技能を習得するところだからです。目指す職業が決定していないまま、安易な理由で専門学校に進学しても意味がありません。必ず、どんな技術や技能を習得し、それをどこで生かすのかを明確にして進学するようにしてください。